

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年10月23日(2008.10.23)

【公表番号】特表2008-511635(P2008-511635A)

【公表日】平成20年4月17日(2008.4.17)

【年通号数】公開・登録公報2008-015

【出願番号】特願2007-530162(P2007-530162)

【国際特許分類】

C 0 7 D 491/048 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

C 0 7 J 69/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/58 (2006.01)

A 6 1 K 31/4355 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 D 491/048 C S P

A 6 1 K 45/00

C 0 7 J 69/00

A 6 1 K 31/58

A 6 1 K 31/4355

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02

A 6 1 P 43/00 1 2 1

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月2日(2008.9.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

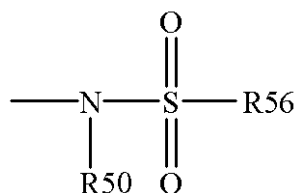
【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 0 】

用語「スルホンアミド」は、技術分野で理解されており、以下の一般式で表されてよいような成分を含む：



ここで、R 5 0 及び R 5 6 は、上記のように規定される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

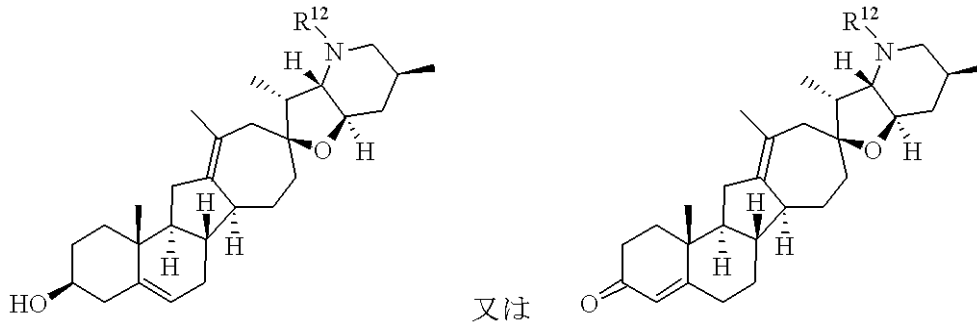
【補正対象項目名】0 0 9 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 9 8 】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、次式の化合物によって表される：



ここで、

$R^{12}$  は、H、アルキル、アリール、シクロアルキル、ヘテロシクロアルキル、ヒドロキシル、アラルキル、ヘテロアリール、ヘテロアラルキル、ハロアルキル、アルコキシル、 $-C(O)R^{21}$ 、 $-CO_2R^{21}$ 、 $-SO_2R^{21}$ 、 $-C(O)N(R^{21})(R^{21})$ 、 $-[C(R^{21})_2]_p-R^{21}$ 、 $-[(W)-N(R^{21})C(O)]_qR^{21}$ 、 $-[(W)-C(O)]_qR^{21}$ 、 $-[(W)-C(O)O]_qR^{21}$ 、 $-[(W)-OC(O)]_qR^{21}$ 、 $-[(W)-SO_2]_qR^{21}$ 、 $-[(W)-N(R^{21})SO_2]_qR^{21}$ 、 $-[(W)-C(O)N(R^{21})]_qR^{21}$ 、 $-[(W)-O]_qR^{21}$ 、 $-[(W)-N(R^{21})]_qR^{21}$ 、又は  $-[(W)-S]_qR^{21}$ ；

$W$  はジラジカル；

$q$  は、1、2、3、4、5、又は6；

$R^{20}$  は、H、アルキル、アルケニル、アルキニル、アリール、シクロアルキル、ヘテロシクロアルキル、アラルキル、ヘテロアリール、又はヘテロアラルキル；或いは、任意の二つの  $R^{20}$  の存在がまとまって、4～8員の置換されていてもよい環を形成し得るし；

$R^{21}$  は、H、アルキル、アリール、シクロアルキル、ヘテロシクロアルキル、アラルキル、ヘテロアリール、ヘテロアラルキル、又は  $-[C(R^{20})_2]_p-R^{25}$ ；或いは、任意の二つの  $R^{21}$  の存在がまとまって、4～8員の置換されていてもよい環を形成し得るし；

$R^{25}$  は、ヒドロキシル、アシルアミノ、 $-N(R^{20})COR^{20}$ 、 $-N(R^{20})C(O)OR^{20}$ 、 $-N(R^{20})SO_2(R^{20})$ 、 $-COR^{20}N(R^{20})_2$ 、 $-OC(O)R^{20}N(R^{20})(R^{20})$ 、 $-SO_2N(R^{20})(R^{20})$ 、 $-N(R^{20})(R^{20})$ 、 $-COOR^{20}$ 、 $-C(O)N(OH)(R^{21})$ 、 $-OS(O)_2OR^{19}$ 、 $-S(O)_2OR^{20}$ 、 $-OP(L)(OR^{20})(OR^{20})$ 、 $-NP(O)(OR^{20})(OR^{20})$ 、又は  $-P(O)(OR^{20})(OR^{20})$  である。

#### 【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0102

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0102】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^{13}$ 、 $R^{14}$ 、 $R^{15}$ 、 $R^{16}$ 、及び  $R^{17}$  が水素であることを特徴とする式2によって表される。

#### 【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0103

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0103】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^1$  が、ヒドロキシル、糖、 $-OP(L)(OR^{20})_2$ 、 $-X-C(L)-R^{21}$ 、又は  $-X-C(L)-X-R^{21}$

であるか；或いは、前記  $R^1$  及び  $R^2$  のまとまりに炭素が加わったもの（該まとまりは該炭素と結合している）が、 $-C(O)-$  を形成することを特徴とする式 2 によって表される。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0104

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0104】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^4$  及び  $R^5$  のまとまりが、二重結合を形成することを特徴とする式 2 によって表される。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0105

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0105】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^1$  及び  $R^2$  がまとまってそれらが結合している炭素と共に、 $-C(O)-$  を形成することを特徴とする式 2 によって表される。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0106

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0106】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^1$  がヒドロキシルで、且つ、前記  $R^2$  が H であることを特徴とする式 2 によって表される。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0107

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0107】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^1$  がヒドロキシルで、前記  $R^2$  が水素であり；且つ、前記  $R^5$  及び  $R^6$  のまとまりが、二重結合を形成するか；又は、前記  $R^5$  及び  $R^6$  のまとまりが、1b



(1b)

（但し、Zは $C(R^{23})(R^{23})$ である）で表される基を形成することを特徴とする式 2 によって表される。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0108

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0108】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^{10}$  及び  $R^{11}$  のまともりが、二重結合を形成するか；又は、前記  $R^{10}$  及び  $R^{11}$  のまともりが、1 b



(1b)

(但し、Zは $C(R^{23})(R^{23})$ である)で表される基を形成することを特徴とする式2によって表される。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0109

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0109】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^5$  及び  $R^6$  のまともりが、二重結合を形成し、且つ、前記  $R^{10}$  及び  $R^{11}$  のまともりが、二重結合を形成することを特徴とする式2によって表される。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0110

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0110】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^1$  及び  $R^2$  がまとまってそれらが結合している炭素と共に、 $-C(O)-$ を形成し； $R^4$  と  $R^5$  がまとまって二重結合を形成し；且つ、前記  $R^{10}$  及び  $R^{11}$  のまともりが二重結合を形成するか；若しくは、前記  $R^{10}$  及び  $R^{11}$  のまともりが1b



(1b)

(但し、Zは $C(R^{23})(R^{23})$ である)で表される基を形成することを特徴とする式2によって表される。

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0111

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0111】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^1$  がヒドロキシルで、且つ、前記  $R^2$  が水素であり；前記  $R^{10}$  及び  $R^{11}$  のまともりが、二重結合を形成するか；又は、前記  $R^{10}$  及び  $R^{11}$  のまともりが、1b



(1b)

(但し、Zは $C(R^{23})(R^{23})$ である)で表される基を形成することを特徴とする式2によって表される。

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 1 1 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 1 2 】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^8$  及び  $R^9$  が水素であるか；或いは、前記  $R^8$  及び  $R^9$  がまとまってそれらが結合している炭素と共に、 $-C(O)-$  を形成していることを特徴とする式 2 によって表される。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 1 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 1 3 】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^{1\ 2}$  が、H、アルキル、シクロアルキル、アラルキル、ヘテロアリール、ヘテロアラルキル、ハロアルキル、ヒドロキシル、アルコキシル、 $-[(W)-N(R^{2\ 1})C(O)]_q R^{2\ 1}$ 、 $-[(W)-N(R^{2\ 1})SO_2]_q R^{2\ 1}$ 、 $-[(W)-C(O)N(R^{2\ 1})]_q R^{2\ 1}$ 、 $-[(W)-O]_q R^{2\ 1}$ 、 $-[(W)-C(O)]_q R^{2\ 1}$ 、又は  $-[(W)-C(O)O]_q R^{2\ 1}$  であることを特徴とする式 2 によって表される。

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 1 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 1 4 】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^{1\ 3}$ 、 $R^{1\ 4}$ 、 $R^{1\ 5}$ 、 $R^{1\ 6}$ 、及び  $R^{1\ 7}$  が水素であり；且つ、前記  $R^{1\ 2}$  が、H、アルキル、シクロアルキル、アラルキル、ヘテロアリール、ヘテロアラルキル、ハロアルキル、ヒドロキシル、アルコキシル、 $-[(W)-N(R^{2\ 1})C(O)]_q R^{2\ 1}$ 、 $-[(W)-N(R^{2\ 1})SO_2]_q R^{2\ 1}$ 、 $-[(W)-C(O)N(R^{2\ 1})]_q R^{2\ 1}$ 、 $-[(W)-O]_q R^{2\ 1}$ 、 $-[(W)-C(O)]_q R^{2\ 1}$ 、又は  $-[(W)-C(O)O]_q R^{2\ 1}$  であることを特徴とする式 2 によって表される。

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 1 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 1 5 】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記  $R^4$  及び  $R^5$  のまとまりが二重結合を形成し；前記  $R^1$  及び  $R^2$  がまとまってそれらが結合している炭素と共に、 $-C(O)-$  を形成し；且つ、前記  $R^{1\ 2}$  が、H、アルキル、シクロアルキル、アラルキル、ヘテロアリール、ヘテロアラルキル、ハロアルキル、ヒドロキシル、アルコキシル、 $-[(W)-N(R^{2\ 1})C(O)]_q R^{2\ 1}$ 、 $-[(W)-N(R^{2\ 1})SO_2]_q R^{2\ 1}$ 、 $-[(W)-C(O)N(R^{2\ 1})]_q R^{2\ 1}$ 、 $-[(W)-O]_q R^{2\ 1}$ 、 $-[(W)-C(O)]_q R^{2\ 1}$ 、又は  $-[(W)-C(O)O]_q R^{2\ 1}$  であることを特徴とする式 2 によって表される。

【手続補正 1 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 1 6

【補正方法】 変更

## 【補正の内容】

## 【 0 1 1 6 】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記前記  $R^1$  がヒドロキシルで且つ前記  $R^2$  が水素であり；且つ、前記  $R^{1,2}$  が、H、アルキル、シクロアルキル、アラルキル、ヘテロアリール、ヘテロアラルキル、ハロアルキル、ヒドロキシル、アルコキシル、  
 $-[(W)-N(R^{2,1})C(O)]_q R^{2,1}$ 、 $-[(W)-N(R^{2,1})SO_2]_q R^{2,1}$ 、 $-[(W)-C(O)N(R^{2,1})]_q R^{2,1}$ 、 $-[(W)-O]_q R^{2,1}$ 、 $-[(W)-C(O)]_q R^{2,1}$ 、又は  $-[(W)-C(O)O]_q R^{2,1}$ であることを特徴とする式 2 によって表される。